



血友病治療の

今を語る



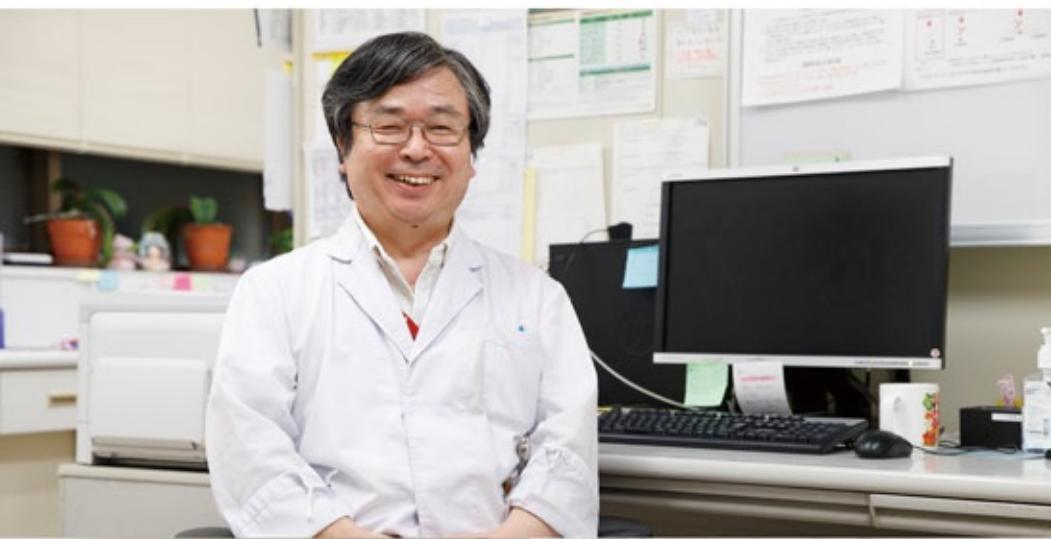
● Interview

独立行政法人 国立病院機構 仙台医療センター

感染症内科 医長 伊藤俊広 先生

研究教育主任 阿部憲介 先生

「多職種かつ診療科を超えた連携で、
きめ細かいケアを目指す」



多職種かつ診療科を超えた連携で、 きめ細かいケアを目指す。



国立病院機構 仙台医療センター
研究教育主任 阿部憲介先生

薬剤部に所属。HIV感染症薬物療法認定薬剤師であり、当施設の薬剤師の中で血友病患者さんの薬剤管理・指導を担当している。

ターニーでは、成人の患者さんを中心として、心に50人の血友病患者さんを診療しています。診療科は3科にわたり、感染症内科では40代を中心とし、70歳前までの方が20人、血液内科では10代後半から30歳までの方が27人、小児科では5歳から10代の方が3人受診しています。

成年の患者さんが多い理由には、同じく東北ブロックの拠点病院である宮城県立こども病院との連携が挙げられます。小児で血友病と診断された患者さんは、基本的に15歳頃までは小児科で診察を受けます。実際は大学進学や就職に合わせて内科へ移行しますが、同じタイミングで定期診療も、宮城県立こども病院から当施設へ切り替えることが多く、最近は特にそのような流れが進んでいます。

国立病院機構 仙台医療センター
感染症内科 医長 伊藤俊広先生

血液凝固疾患・出血性疾患・HIV感染症の専門医。現在、当施設の感染症内科・血液内科で、成人の血友病患者さんを診療している。

血友病診療連携において、東北ブロックの拠点病院に認定されている国立病院機構 仙台医療センター。医師と薬剤師が密に連携し、さらに院内他科との協力も非常に進んでいます。現在

の診療状況や課題、今後の地域における役割や抱負について、当施設の感染症内科 医長 伊藤俊広先生と、研究教育主任 阿部憲介先生にお話をうかがいました。

国立病院機構 仙台医療セン

東北地域における 成人の血友病診療の拠点

医師と薬剤師をはじめ
多職種で細やかな診療を



地域の患者会に出かけて、血友病について講演することもあるという伊藤先生。「成人になると当施設で定期診療を担当することになる患者さんも多いので、ふれあいという面でも意義のある機会だと思います」。

当施設の感染症内科と血液内科で、血友病診療を中心となつて取り組んでいる伊藤先生は、止血管理の指導について「20歳ぐらいまでの年齢で感染症がない患者さんの中には、出血についてあまり深刻に捉えず、破綻出血を起こしてしまってあります。成人になり自立してもらいう」という意味でも、自己管理の大切さをしつかり伝えるように

専門分野を持ちながらも、「薬剤師はジェネラリストの視点が大事」と語る阿部先生。「幅広い知識や経験が役に立つので、まだ経験がない領域にも積極的に関わってほしいです」。



しています。また、スポーツをする患者さんも多いので、ライフスタイルに合わせた輸注方法も合わせて指導しています」と話します。

そして、血友病患者さんに薬の説明などを行なっているのが、薬剤部の阿部先生です。「処方した薬を患者さんがきちんと使用しているか、その上で出血の有無や、決められた期間で適切に使われているかなどを確認しています。また使用することでどのような変化があるかについても、

毎回診察の度に質問しています」と、患者さんの状況を細かく把握するように心がけているそうです。特に高齢の患者さんは、血圧を下げる薬など、他の服用薬との併用に注意しているそうです。

特に感染症内科では、伊藤先生が診察を行う際に阿部先生と看護師が立ち会うため、患者さんの情報を同時に共有することができます。現在、診察時に患者さんから聞かれる悩みについて、「年齢を重ねるほどに、関節症が増えて注射がうまくできなくなってきた」というお声を聞くことがあります。またH.I.V.感染のある患者さんは、感染がない患者さんと比べて、



抗H.I.V.薬との関係で代謝異常が起りやすいため早くから注意を促しています。ただ、医師には話しにくいこともあるかもしれませんから、薬剤師や看護師が何気ない会話から聞き出してくれる情報はとても役に立ちます」と伊藤先生は信頼を寄せます。阿部先生も「診察の合間や、採血のタイミングをみて、病気に関係がないことでも積極的に患者さんと話すようにしています。

会話の中から、今の患者さんの状況がわかることもあるので、普段からコミュニケーションは大事にしています」と話します。

取り組んでいる例は全国でもまだ少なく、当施設の大きな特徴の一つもあります。看護師も含めた三者と、さらに感染症内科では同科に所属しているカウンセラーとも今後ますます密接な連携が期待されています。

院内他科との連携について

若い医療者の育成に向けた取り組み

歯科口腔外科や、整形外科など出血を伴う治療が必要な診療科とも、血友病患者さんの情報交換を行ったり止血管理を担うなど、連携は非常にスムーズです。その上で、今後は全科にまたがるカンファレンスなども検討されています。「複数の診療科や医療者で話し合いが必要だと考えられる患者さんがいらっしゃった場合に、不定期でも良いので勉強会を実施できたいなと思います」と阿部先生。



成人の患者さんは、補充も含めてライフスタイルが確立されている方がほとんど。「自己管理は大変難しいですが、血友病の患者さんには特に重要なこと。私たちも普段の診療時の様子や会話から、患者さんの状態を見極めようとしています」と、伊藤先生と阿部先生。

血友病の患者さんは、補充も含めてライフスタイルが確立されている方がほとんど。「自己管理は大変難しいですが、血友病の患者さんには特に重要なこと。私たちも普段の診療時の様子や会話から、患者さんの状態を見極めようとしています」と、伊藤先生と阿部先生。

また、伊藤先生は若い医師や医療者の教育も課題に挙げ、「血友病の患者さんは人數が少ないので、診療する機会も少ないです。だからこそ機会を設けて、血友病という病気について学び、止血が必要な際にしっかりと対応できる知識を持つていてほしい」としておかれなければいけないと思います。一年に1回ぐらいは、職種を超えて、基礎知識のおさらいや最新情報の共有をしたいですね」と話します。薬剤部でも、若い薬剤師

「薬剤師の使命として、国民の健康管理、医療安全（医薬品の適正使用）に加えて薬害防止があります。H.I.V.感染の方を含めた血友病の患者さんを診療している当施設だからこそ、伝えられることがあります。H.I.V.感染の方を含めた血友病患者さんの診療について、他院の医師や地域の患者さんから相談があれば積極的に関わっていきたいと考えています。「遠

方で定期的に通うのが難しい方や、症状が安定している方については、近隣の診療施設に通院しながら、年に1回の健診や全身管理などの点で問題が生じた時に、いつでも相談役になれたらと考えています。それが包括医療のネットワークにおける、私たちの役割でもあります」と伊藤先生。阿部先生も「薬剤師も、院内だけでなく外部の講演会や勉強会を通して、最新の知識の習得やネットワークづくりが進んでいます。こうした薬剤師同士の連携が強化されれば、困った時

をはじめ実習に参加している学生に向けて説明を行っており、実習の中で取り入れています」。

地元の拠点病院としての役割を強化して、患者さんにお願いし、学生実習の中で取り入れています」。

H.I.V.に感染している血友病患者さんを勉強会に招いて血友病の疾患について話をしています。阿部先生は、

「薬剤師の使命として、国民の健康管理、医療安全（医薬品の適正使用）に加えて薬害防止があります。H.I.V.感染の方を含めた血友病の患者さんを診療している当施設だからこそ、伝えられることがあります。H.I.V.感染の方を含めた血友病患者さんの診療について、他院の医師や地域の患者さんから相談があれば積極的に関わっていきたいと考えています。「遠

地域の拠点病院としての役割を強化

今後当施設では、主に成人の血友病患者さんの診療について、他院の医師や地域の患者さんから相談があれば積極的に関わっていきたいと考えています。「遠

方で定期的に通うのが難しい方や、症状が安定している方については、近隣の診療施設に通院しながら、年に1回の健診や全身管理などの点で問題が生じた時に、いつでも相談役になれたらと考えています。それが包括医療のネットワークにおける、私たちの役割でもあります」と伊藤先生。阿部先生も「薬剤師も、院内だけでなく外部の講演会や勉強会を通して、最新の知識の習得やネットワークづくりが進んでいます。こうした薬剤師同士の連携が強化されれば、困った時

にすぐにつながり情報が共ができるので、患者さんのお役に立てると思います」。

血友病診療連携の拠点病院として、今後ますます地域で重要な役割が期待される当施設。伊藤先生・阿部先生は、血友病診療にかける思いや今後の抱負を力強く話してくださいました。

患者さん指導に役立つ各種パンフレット。

バイエル薬品株式会社では、患者さん向けの指導パンフレットをはじめ、ご家族や学校の先生に、血友病について知っていただくためのさまざまなパンフレットをご用意しています。詳しくは弊社医薬情報担当者までお気軽にお問い合わせください。

